

みずうみワーケーション

たとえば、
こんな日々。



鳥取県 湯梨浜町

たとえば、
こんな日々。

ウェブ環境を活用し、おおらかな自然のなかで仕事する。
ワークとワーケーションをひとつに、という考えがワーケーションです。鳥取県のほぼ中央に位置する湯梨浜町には、きれいな水景色があります。東郷湖です。この東郷湖をシンボルとするのが「みずうみワーケーション」。

ひとことでワーケーションといっても、仕事の内容、その目的、参加人数などによってスタイルはまったく違ってくるでしょう。2021年晩秋から2022年新春にかけて3つの「みずうみワーケーション」が実施されました。強化合宿であったり、親睦研修であったり、産物探索であったり。
どこにもないオリジナルなワーケーション企画の参考になさってください。



ランナーたちの ふれあい合宿



岩出玲亜さんは、2019年国内女子マラソンタイムランキング1位の実績を持つトップアスリート。実業団に所属せず、フリーの立場で活動をつづけるプロランナーとして、日々自らの厳しいトレーニングだけでなく、指導者という役割もこなしている。

晩秋の湯梨浜町に、岩出さん率いるランナーグループ8人が訪れた。東京近郊からが多いが、愛知県や香川県などからも参加したマラソン愛好家たち。走力向上をめざす合宿ということになるけれど、みんなIT企業、広告代理店、不動産企業などなど職業を持つ市民ランナーなので、トレーニングとともにそれぞれのリモートワークも日課に含まれる。

宿で荷を解いたメンバーたちはさっそく着替えて集まり、入念に身体ならした。
「おや、走るんですか」

町の人のにこやかな声に、メンバーたちもみな笑顔で手を振る。一瞬でできあがる親交。ふと湖を見ると、すいすいと近寄るまっしろい影……。1羽の白鳥だ。首を折り曲げ、優雅な歓迎のあいさつ。

走ったからだを湯が癒す

早朝、東郷湖畔に全員がそろった。

「これだけ空気が澄んでいると、テンションあがりますねえ」

ウォームアップしながら空を仰いでいるのは、IT企業のシステムエンジニア氏だ。前夜は夕食後、窓からの湖面を眺めつつパソコンに向かい、いい仕事ができたといい。

さあ、スタート。岩出選手の先導で東郷湖周回のランだ。1周およそ12キロを、走力に合わせて3周組と2周組。それぞれがいつもより少しがんばるぐらいのペースで行く。

走り終えたあとと岩出選手から聞かせてもらった、このコースの感想。

「町なかで10キロ余も信号のない道というのは初めての経験です。どの道も整備されていて、とても走りやすい。水景色が変化に富んでいて飽きないし、ほどよいアップダウンがあるため、走り込みには絶好です」

このコースでいちばんの登り坂が印象に残ったと全員が言う。やや湖から離れる出雲山の道だ。出雲山といえば、この町にゆかりのある下照姫命の神話がある。下照姫命が出雲から亀に導かれて海を渡り、お着きになったのがこの町の海岸。町の人に安産や織物の指導をされた姫だが、ときおり故郷が恋しくなる。そんなとき、高台に登り、出雲の方角を眺めたものだった。その高台こそが、出雲山。

さすがはプロランナー、岩出選手が30数キロを息も乱さずゴールイン。遅れて続々と帰ってくる。真っ先に向かうのは、もちろん湖中から湧くめずらしい温泉だ。

に全員、沈黙。

締めには地元ミュージシャンの演奏会。月が東郷湖の湖面を照らしている。

走路のよさと人のあたたかさ

最終日。仕上げの早朝ランだ。



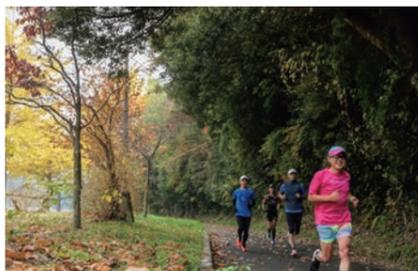
爽快な海抜けのコースをみんなで激走



湯梨浜町陸上クラブのメンバーとの交流会



水景色が変化に富んでいて飽きないと、岩出さん



信号のない道を走るメンバー



湖からの爽やかな風に吹かれてリモートワーク



地元産鳥取和牛のBBQに舌鼓



プロランナー岩出玲亜さんと、岩出さん率いるマラソン愛好家グループの皆さんと湯梨浜町陸上クラブのメンバー

ランナー交流の夢広場の芝生

ワーケーションの意義の大事なひとつが、訪れる人と町の人とのふれあいである。

トップアスリートとそのグループの合宿となれば、ぜひ交流会をと計画したのが湯梨浜町陸上クラブだった。湖畔に広がる、屋根付き多目的広場「ハワイ夢広場」の気持ちよい芝生で交流会となる。体幹トレーニングや走り方のアドバイスなど、岩出選手の専任コーチの主導で行われてゆく。

古稀を過ぎた陸上クラブ最高齢のランナーは、全日本マスターズで活躍した大ベテランだけれども練習は我流だったと言い、「体幹トレーニングなんて、生まれて初めての経験ですわ、ハハハ」

広場を出て、陸上クラブの会長が先頭に立ち、「楽しいコースをご案内します」

日本海沿いに出ると、訪れたメンバーたちから、いっせいに歓声があがる。地元のランナーが知り抜く絶景の海沿いコースだ。

夕食は、訪れた人と町の人とがいっしょに楽しむ歓迎会。ゆりはまファンの料理師が腕を振るった。

「走ったあとの疲労回復を助ける食材、たっぷりの野菜など、湯梨浜町産の旬の素材を中心に組み立てました」

洋風だが、鰹と昆布の出汁を隠し味に使った優しい味わい

沿道で町の人びとから声援が飛ぶ。全員が距離は短めのスピード練習で、きりっと終える。どの顔にも充足感があふれる。

海外を含め、これまでたくさんの練習コースを走ってきた岩出選手は、最後に言う。

「走路のよさ、人のあたたかさ。私のなかでは、ベストスリーに入るコースでした。これから何度も来たいです」

リフレッシュの研修合宿



東郷湖畔に集まってきたのは、スーツ姿の若きビジネスマンたち。みんなのバッグの中には、ぎっしり詰まった書類、そしてノートパソコン。きりりと仕事モードである。

全国に支社・事業所をもつ、サービス関連大手企業のスタッフたちだ。

目的は、ずばり研修。

80人ほどで構成される事業戦略部というセクションがあって、そのなかにくつつかのプロジェクトチームが組まれている。各プロジェクトから、チーフ格と若いメンバーたち数名が参加し、全体で20人ほどのグループによる合宿だ。

「各々の仕事を見直し、問題点と解決策を見つける。というのが主題ですが……」

部全体のリーダーは言う。

「プロジェクトどうしの意思の疎通がかならずしも万全といえないのが現状でした。お互いに忙しい。すれ違いも多い。部全体の力量をあげてゆくためにも、ここはちょっと非日常的な時間を

夕食後、規律正しく全員はふたたび会議室へ。ウェブを活用し、本社に留まっているメンバーたちを交え、活発な議論が交わされてゆき、夜が更ける。

熱い議論が交わされる

翌朝。いったんプロジェクトは解散状態とし、バラバラに数グループとなって軽い散策に出る。プロジェクトを超えて昨夜の議論のつづきをすることになるのだろうか。

朝食後、またしても会議室でウェブ活用のミーティングである。若手メンバーのひとりが証言する。

「議論全体が建設的で明解でした、いつもより。私だけの感想ではなく、多くが同じ意見でした。ちょっと環境が変わっただけで、何でしょうか、この感じは」

昼食をはさんで、会議室に熱気はつづく。

夕食時、湯梨浜町が計画した歓迎のひととき。東京から訪れたベテラン・ピアニストと、当地に住む若手バイオリニストとのコラボレーションの宵である。

発展させるのは青空のせい

明け方まで降った雨が上がり、快晴。

研修合宿メンバーは、またしても会議室かと思えば、ちがった。

持ちながら、ざつくばらん議論で相互理解を深めよう」

ということから、縁あって湯梨浜町を舞台の数日間が実現した。

水は人の心を落ち着かせる

宿に着いて、ひと休みもそこそこ

に会議用に設けられた部屋に全員が集まる。課題の再確認。ピリツとした空気が漂う。リーダーは言う。

「じつはもうこのときから、今回の試みの成功を予感していました。水辺の会議場に集まったメンバーたちの様子が違った。

どこかゆるやかでありつつ、いいハリがあった。水景色の効果でしょうか。水は人の心を落ち着かせると聞きますから。じつは私もその一人だったように、あとから指摘されました。いつもとちがって顔つきが穏やかだったそうです。いつもとちがって？ すこし反省した次第です」

夕食前の短い時間、それぞれが梨や苺の生産者について話を聞く。これは、モノづくりの実情にふれることで、それぞれのプロジェクトの発想につなげようという初めからのプランに入っていた。

全員が（ふたたびプロジェクトをばらしたメンバーどうしで）思い思いの探索に出かけてゆく。

リーダーは言う。

「計画では、この日の午前中に仕上げのミーティングとということになっていましたが、変更しました。昨日までで所期の目的であった相互理解の道筋はできた、というのがチーフたちの手応えです。たしかに期待以上の成果は得られたと実感しています。ならば、それを発展させるのは会議室でないほうがよい。こんなにいい天気なんだから」

きらきら光る東郷湖を眺めながら、中国庭園燕趙園へ。中国人技術者の手による、歴代皇帝が親しんだままの本格中国庭園、その層気楼のようなふしぎな空間に時を忘れて浸る。さらに高さ40メートルを超える今滝へ向かい、仰ぎ見る。

などなど歩き回ったあとは、やはり湖畔の足湯だ。思わず、うーんと声が出る。

昼近く、パンフェアを訪れる。地元のパン屋さんが自慢のパンを持ち寄った。

研修合宿の面々は、パンの袋を提げながら町の人びとと楽しそうに歓談している。さつき知り合ったばかりなのに、何年来の友人みたい。ではまた、お元気で！





ワークとバケーションの両立、それが「ワーケーション」の主旨。日常とは少し離れた地でそのふたつを心ゆくまで行う日々。だから、ここからここまでがワーク、ここからがバケーションと切り離さず、ふたつが一体化した時間を過ごすとなれば、それこそが典型的なワーケーションだ。

冬が訪れ、ときおり雪片の舞う湯梨浜町で実施された株式会社ひらまつワークションは、まさにそんな完全一体型の日々となった。

なぜなら——。

フレンチ、イタリアンなど高級レストランやホテルを全国で展開する「ひらまつ」は、豊かな食文化を提供することを使命としている。そのなかで大きな価値を置いているのが、料理のみならずである食材だ。丹精こめて産み出される各地の食材への敬意は深い。

そこで——。

「ときおり噂に聞いていた鳥取県湯梨浜町の食材、いつか訪ねよう」と……。

の想いを実現させたわけだ。里や海の食材を、そしてそれらの育成に携わる人々を訪ね、「食材のこころ」にじかに触れよう、という試みがこのワーケーションの最大の目的ということになる。

日々、全国各地で腕を振るっている4人のシェフたちと、アシスタントメンバーたちが集まった。

訪れ、見て、感じる

シェフたちは雪模様のなか、町の各地に散ってゆく。

「この寒さ、きりっと気持ち引き締まりますね」
ひとりのシェフが言う。もちろん期待感が言わせるセリフだ。さて——。

あるシェフは、廃校になった小学校を活用した完全閉鎖型の植物工場を見学に行った。

鮮度はそのまま保ったうえで旨味の成分をぐんと上げるといふ、独自の「氷温熟成」の舞茸におおいに興味を惹かれ、こう感心する。「発想と愛情のたまものですね」

さらに——。

あるシェフは養鶏場、そして牛肉をあつかう店を訪ねた。

養鶏場は、ケージではなく大地に放し飼いの「平飼い」方式。野に遊び、季節の野菜をたっぷり食べて育つ鶏たちから卵をいただいている。

「鶏たちがこんなに人なつっこいということは、ストレスがないということ。卵がすこやかなのはよくわかります」

牛肉店では、肥育から始めているという牛肉への想いの深さに感激する。

「やっぱり食材は環境です。環境とは育てる人の想い、やさしさに、に尽きるとあらためて実感します」

いっぽうで——。

あるシェフは少し足をのびし、隣町の和紙生産会社を訪問する。歴史があり、趣きが豊かでありながら、時の流れのなかで需要が減っているこの生活素材の魅力を再発見し、「こうしたきめ細やかさこそ、料理に添える、あるいは包むところさじだと思えます」



鳥取県の冬の海の幸がシェフたちの感性を刺激します



廃校を利用したファームの庭では葉物野菜の栽培を見学



シェフたちも初めて出会う魚たちに興味津々



元教室だった部屋では、大人気の熟成舞茸がすすくと

混成チームの饗宴

宿に戻ってきたシェフたちは、くつろぐことをせず、すぐに厨房へ。

ユニフォームに身を包みスタジアムに出てきた選手たちが、ついさっきとは別人のような熱気を感じさせるのと同じように、仕事着すがたのシェフたちに戦闘モードがみなぎってきた。プロフェッショナルの空気だ。

出会った食材を中心に、アイデアが話し合われる。

そして、ここがワーケーションで大事なところだが、その地の人々との得がたい交流が始まった。湯梨浜町で飲食業を営む料理師たちも厨房に加わってきたのだ。

一瞬にして出来上がった、心の通う混成チームである。

きびきびと、しかもいかにも楽しくて仕方がないといった動きで、今宵のテーブルに乗る完全オリジナルメニューへ向けてチームは一丸となる。

いよいよ――。

食材を生産する人々も参加して、ささやかな親睦のテーブルが整った。

全国から集まった「ひらまつ」のシェフたちは、お互いが活動している地の特性などを披露する。湯梨浜町の人々はこの町の特徴を紹介する。

だれがシェフでだれが客かがあいまいな、にぎやかな「料理の饗宴」となった。



見事な「松葉がに」を使います

東郷湖の鬼蜆も欠かせません

丁寧にさばいて、香ばしい焼き目を



東京・箱根・大阪・福岡。各地のシェフがアイデアを出し合って新作を試作します



完成した「お取り寄せセット」の試作は、「ゆりはま野菜と鬼蜆&松葉がにのアクアパッツァ ひらまつ特製だし&ペの pasta」を添えて



地元で調達した食材を使う新作料理の試作が始まります

食材のすぐそばで

全体のリーダー格であるシェフが、感想を述べた。

「自然のなかで、つまり食材のすぐそばで時を過ごすというのが、こんなにも有意義なことだとしみじみ思いました」

そして、ガラス窓越しのちらちら舞う雪に目をやり、こう続ける。

「風や雪を肌で感じながら、料理のヒントをたくさんいただきました。私たちにとって、人に奉仕するのが仕事だということの意味を、あらためて考えました」

ひとことでワーケーションといってもさまざまなスタイルあるいは使い方があはずです。湯梨浜町では、宿泊先をはじめ、みずうみワーケーションの効果的な過ごし方をご提案いたします。町内のみずうみワーケーション対応施設は、どちらも情報通信環境は万全です。ちょっとした息抜きに、湯梨浜町の名所めぐりもお楽しみいただけます。新たな発見のあるお仕事のために。東郷湖の水辺で、お一人おひとりの充実時間をお過ごしください。

みずうみワーケーション対応施設



国民宿舎「水明荘」

国民宿舎「水明荘」はWi-Fi環境やグループでのテレワーク室も完備。疲れを癒す源泉掛け流しの湯も自慢です。



「湖屋(こや)」

東郷湖を眼前にのぞむ「湖屋」ではモバイルハウス「住箱」やカフェで快適なノマドワークが可能。

みずうみワーケーションのお問い合わせは、
湯梨浜町 産業振興課

Tel. 0858-35-5382

<https://www.yurihama.jp/>



〒682-0723 鳥取県東伯郡湯梨浜町大字久留19番地1